

主 題	曜日対抗レクリエーションを通して考える、レクリエーションの参加率向上とスタッフの意識改革。
副 題	利用者心を掴むレク「ちとせ杯」

大規模通所介護事業	レクリエーション	研究期間	20か月
-----------	----------	------	------

事業所	社会福祉法人 敬心福祉会 指定通所介護事業 デイ・ホーム千歳		
発表者：	氏家 由美恵（うじいえ ゆみえ）	アドバイザー：	岩野 徳幸
共同研究者：山田 育枝			

電 話	03-3307-2282	E-mail	chitose.day@keisinen.or.jp
FAX	03-3307-1140	URL	www.keisinen.or.jp

今回発表の事業所やサービスの紹介	デイ・ホーム千歳は世田谷区・調布市・三鷹市の境目の給田に平成9年に開所しました。同施設内で特養・短期入所・訪問・居宅を運営しています。地域には多数のデイサービスが競合し、その中でも敷地が広くパワーリハビリやPTによる個別リハビリなど幅広いリハビリ内容には定評があります。若い職員が中心になって、ご利用者中心の活動を目指し、日々技術向上に取り組んでいます。
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

当事業所では、平成16年度よりパワーリハビリを導入し個別機能訓練の充実したデイサービスを目指してきた。平成24年度の法改正を機にPTによる個別リハビリや小グループのリハビリ、集団体操にセラバンドなどの器具を導入する等、内容の充実を図った。

リハビリとは別にレクを午後に行っていたが、リハビリの充実と共にレクへの参加者が減り、以前は20名前後参加していた利用者が10名前後となる。人数が減ったことで、手厚くできるようにはなったが、同時に課題も出てきた。

- ① 利用者の理解力や身体能力に差が目立つようになった。
- ② 点数を競い合う内容だと、上手くできない人を強く攻めてしまう人がある。
- ③ レクの内容は当日決めていたため、興味をもてただけでない。

- ④ 担当者によりレクの質に差が出てしまう。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

以前の様に参加者を増やし、楽しみながら身体を動かせるようになる。グループで仲間意識が芽生えるようなレクを提案し参加意欲を高める。

職員の意識改革。レクの意義を見直し、その場しのぎでない計画的なレクを提案できるようになる。

《3. 具体的な取り組みの内容》

新しく曜日対抗レクを提案し実施。（以下、「ちとせ杯」と記述）

- ◎ 定員50名（一般38名・認知12名）のうち20名前後を対象とする。
- ◎ 職員配置は2名→3名とし安全に配慮。
- ◎ 開催時間は13:45～14:30 準備、移動、片づけなど考慮すると、30分位となる。

- ◎ 期間は月一回、一週間連続で行う。
- ◎ 曜日対抗なので、曜日毎の結果を競い合うことになる。結果を掲示し共有する。
- ◎ 優勝した曜日はトロフィーを贈呈し写真撮影を行い掲示する。
- ◎ なるべく各曜日が優勝できるようにする配慮も行う。
- ◎ ちとせ杯終了後のおやつの時間等に、利用者と優勝する方法などを話し合い、団結力を高める。

準備期間について。

- ◎ 毎月レク担当者が協議して内容・日程など打ち合わせる。また、前回の反省も行い記録し次回に活かす。
- ◎ 開催前のレクの時間にちとせ杯の練習を行い、ルール、利用者や物品の配置などを調整する。
- ◎ 毎月発行している利用者向けの新聞にも予定を掲載。
- ◎ 当日の昼食前にちとせ杯の予告。

《4. 取り組みの結果と考察》

1.の課題に対する結果

- ① 全員が同じ目標に向かうこと、また単純な内容でも演出を工夫することで、理解力や身体能力の差も目立たなくなった。参加者が増えたことで、賑やかな雰囲気に戻り、弱い立場の人も活気を取り戻すことができた。
- ② 皆で共同して同じ目標に向かって同時に行っているため、待ち時間もないので、他者の批判をすることがなくなった。
- ③ 事前練習やPRも行い利用者に浸透している。当日も「ちとせ杯なら」と参加してくれるリハビリの利用者が増えた。
- ④ どの職員が行っても同じ質の内容で提供できるようになった。

《5. まとめ、結論》

ちとせ杯導入後、利用者同士でレクについての会話が増える等、一体感を感じる場面が増え、そこから新たな人間関係を作ることができ、社会交流の場として以前より成熟した。

職員もレクに対して場当たりのレクから「より楽しいこと、意義のあることを計画的に提供したい」という風潮に変化した。

ちとせ杯は現在毎月継続し、人気のある活動の一つに成長している。リハビリだけではなくレクも充実してきた。ただ、今後利用者から選択してもらうには、趣味活動なども充実させて新たな個性を打ち出してゆく必要もあると考えている。

今回「ちとせ杯」を通して、レクという活動の意義を再確認することができた。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

レクリエーション・ゲーム全集

/成美堂出版

お年寄りの楽楽レクリエーション

/黎明書房

《8. 提案と発信》

デイ・ホーム千歳は社会福祉法人として地域に貢献する役割を担っている。小規模デイや趣味活動重視のデイに注目が集まっているが、当事業所では広い敷地を活かし、リハビリや趣味活動が出来ない方等の多様な受け皿になることが大規模事業所の必要性であると考え、今後も課題として取り組んでいく。

【メモ欄】